



# きたネット NPO法人 北海道市民環境ネットワーク

We love, We Save...HOKKAIDO

北海道のめぐみ豊かな自然環境を、子どもたちの未来に引き継ぐために・・・

北海道の自然環境を守る活動を支援し、活動を支え合うネットワークづくりを行って8年目になりました。現在、正会員団体53団体、正会員個人15名、賛助会員個人46名、賛助会員団体14。



# NPO法人北海道市民環境ネットワーク

## どんな団体？どんな活動をしているの？

### ネットワーク運営と環境活動中間支援

- ・北海道の環境保全のために活動する団体、支援する方や企業・団体とネットワークをつくっています。
- ・環境活動の活性化、効率化をはかるための「人・もの・資金・情報・ノウハウ・専門性・システム」を相互に交流し補完し合い、各団体がより強い活動基盤を作り上げていくための支援拠点です。
- ・環境を守る仲間の積極的な情報交換を通じた有機的なつながりから、それぞれが学びあい支え合い、実り多い活動を展開できる場を育てています。
- ・市民レベルでスタートしたネットワークが、行政や企業、大学などとのパートナーシップに広がりつつあります。
- ・「環境中間支援会議・北海道」のメンバーとして、札幌市環境プラザ、北海道環境財団、EPO北海道(環境省)と連携し、効率的な中間支援

【定款 目的】北海道のめぐみ豊かな自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために、環境保全に取り組む市民活動のネットワークを築き、環境保全団体の基盤強化及び支援を行うとともに、企業及び行政とのパートナーシップの構築を図り、北海道の環境保全に寄与することを目的とする。



## きたネットの歩みは

[設立] 2002年11月9日

札幌市において任意団体「北海道市民環境ネットワーク」設立フォーラムを参加者132名で開催。

[NPO法人化] 2007年10月

2006年5月 任意団体2006通常総会にて法人化を決定。

2007年5月24日、法人設立総会を開催。

2007年10月5日、法人設立。初代理事長に倉持壽夫が就任。

2009年5月23日 新理事長に秋山孝二が就任。

[会員数の推移] 2007年10月以降は法人会員に移行

発足時2002年 52 (正会員/24団体、個人会員/25人、賛助会員/3企業)

2010年10月現在

128(正会員/53団体15個人、賛助個人46人、14団体・企業等)

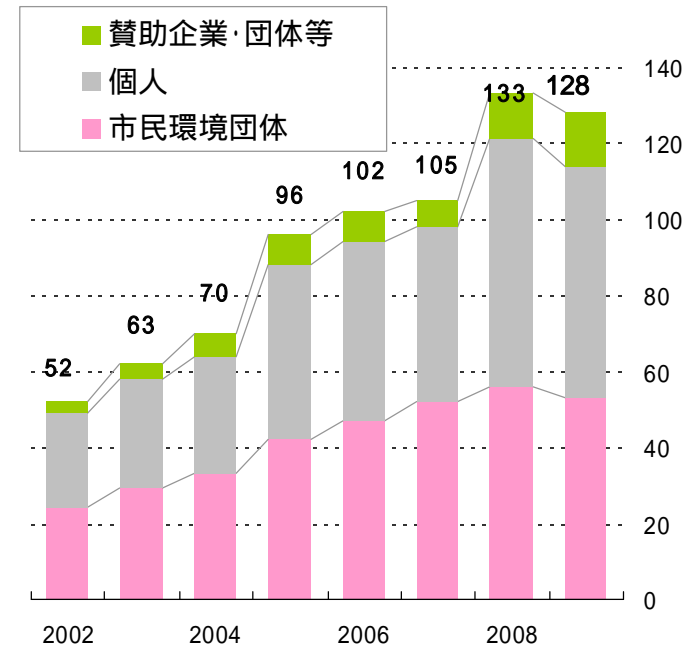
### 【会員】

#### 1. 会員(市民環境活動団体・個人)

この法人の目的に賛同して加入した、個人、法人及び団体。総会における議決あり。

#### 2. 賛助会員(企業・団体・個人)

この法人の目的に賛同して加入し、事業に協力する個人、法人及び団体。議決権なし。



2002.11 設立フォーラム



2007.05 法人設立総会

# 北海道に広げていこう、環境のネットワーク

きたネット会員数 [2010.09現在] 正会員...53団体・15個人 賛助会員...46個人・14法人・団体

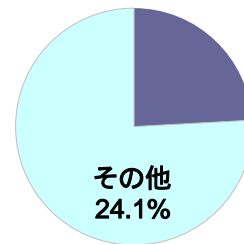
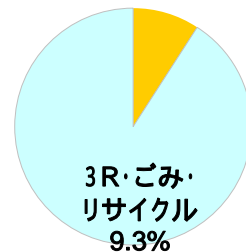
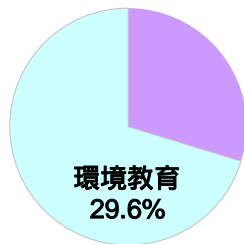
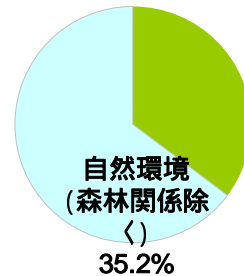
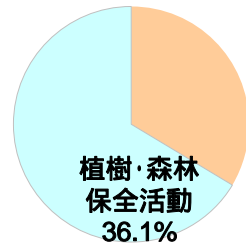
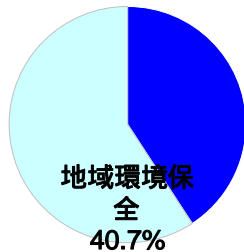


## ★きたネット賛助会員/北海道の環境活動を支援する企業・団体

- 網走市廃棄物処理協同組合・エムフォークス株式会社・親切会北海道支部・株式会社スノーボール・山岡さんファミリー
- 東亜建設工業株式会社北海道支店・株式会社ディール企画・ホームマック株式会社・株式会社プリプレスセンター・株式会社古山商店
- パタゴニア札幌北/パタゴニアアウトレット札幌南・北海道自動車処理協同組合・財団法人前田一歩園財団・雪印種苗株式会社



## 会員団体 どんな団体が、どんな活動を？



複数にまたがる活動を展開しているケースがあるため、合計すると100%を超えます。

### 会員の特徴

- ・活動は全道にわたっている。
- ・団体の実力、活動範囲などは多種多様。
- ・事務局を札幌に置く団体が50%
- ・NPO法人 42% 任意団体50% その他 8%
- ・自然環境保全(野生動物保護を含む)、森林保全、地域環境保全といった、北海道らしい活動を行っている団体が多い
- ・さっぽろ環境賞、環境保全・創造部門 第一回市長賞「NPO法人森林遊びサポートセンター」、第二回優秀賞「NPO法人カラカネイトンボを守る会」も会員。
- ・会費をはらってネットワークに入る団体=交流・情報交換、学びあいに積極的。会員間の中が良い。新会員にも友好的、懇親会などたいへん盛り上がる。
- ・高齢化・人手不足・資金不足・発信力(IT)不足など、各団体悩みを抱えながら活動。



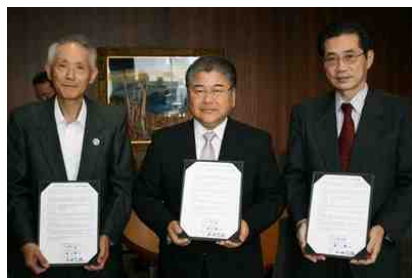
# きたネットの事業



- (1)環境保全活動のネットワーク構築に関する事業
- (2)環境保全活動を支援する事業
- (3)環境保全活動に関する事業
- (4)その他この法人の目的達成のために必要な事業



## きたネット最近の NEWSから



2009.04 E day HOKKAIDO(中間支援4団体協働による環境イベントカレンダー)の運用開始

2009.09 きたネットフォーラム開催における他組織との連携 (北海道・札幌市円山動物園・酪農学園大学環境システム学部の共催)

2009.10 第2ラブアースの森として、札幌市・NPO法人森林づくりサポートセンターとの3者協定により「ラブアースの森in札幌・茨戸」における森づくりがスタート

2010.03 コープさっぽろ未来(あした)の森づくり基金 事務局業務一部受託  
・組合員と市民による森づくり活動のコーディネート  
・助成制度/制度整備・募集広報・審査会準備・委員研修企画実施等

2010.05 きたネットが提案、環境省主催・中間支援4団体共催で生物多様性の日に「生物多様性フォーラム」開催

2010.04-06 ラブアース・クリーンアップin北海道2010の開催  
2010年度活動/参加者約50000人、参加団体数約2400

2010.07 環境省生物多様性センター「いきものみつけ」事業受託  
きたネットの在札幌6団体・円山動物園のネットワーク事業、札幌市内7か所、12回の自然観察会を実施

2010.09 昨年に引き続き、きたネットフォーラム開催における他組織との連携、外部団体(エゾシカ協会・ヒグマの会等との協力による分科会形式の導入)

2010.09 三井物産環境基金の助成金獲得

2010.10 「ラブアース活動」さっぽろ環境賞温暖化対策部門優秀賞をいただく

2010.10 市民活動助成セミナーのUstream配信が実現

2010.11 北海道の環境活動ポータルサイト「環境 ナビ北海道」開設

各種委員/札幌市環境都市札幌推進会議、北海道環境道民会議、企画委員会、海岸漂着物対策推進協議会、北海道森づくりネットワークの集い委員会、アースデーEZO大通実行委員会他







## 環境団体・市民・企業・行政・子どもたち、 同じ目線で、北海道の環境のために。

「ラブアース・クリーンアップin北海道」は今年で7年。北海道初の全道民が主体となる、ごみ拾いのムーブメントです

自然や、地球を愛するためには、まず身近な地域を愛することから。

「環境を大切に作る心」を誰でも参加できるごみ拾いで育み、つなぎ、よりよい北海道の環境を次世代に残していくことを目指しています。

### ラブアース・クリーンアップin北海道2010(最終集計中)

参加団体：約2500団体・企業    参加人数：約50000人

ラブアース・クリーンアップin北海道 2010年の活動から

- ・札幌市からの参加団体は約600団体
- ・今年も札幌市児童会館158館、5321人が参加してくれました。
- ・札幌市とのコラボレーション(試験的に実施)  
清掃をしてくれた札幌市内の小中学校・児童会館の子どもたちに「参加証」を配布、参加証を円山動物園に持参 「北海道の野生動物カード」に交換  
札幌市美化推進活動支援を活用
- ・企業活動とのコラボレーション
- 清掃活動に指導者として協力



6/6 石狩湾新港でのごみ拾いビーチウォークには379名(札幌市内企業 13)人が参加。4トン回収。



2008-2009コンサドーレ札幌との共催で活動

### 【課題】

- ・参加者が増大して、対応できる人手不足。
- ・札幌が中心なり、地域の活動の把握が困難。
- ・広報の協力者、の確保。
- ・企業からの協賛金など、資金が不安定。  
次年度開催のめどがつかないのはいつも数カ月前。

# ごみ拾い活動で得た「環境保全」の想いを、次のアクションへ。 「ラブアースの森づくり」活動で北海道の環境を守る。



清掃活動に参加して下さったみなさんの北海道の環境によせる想いを、北海道の環境保全につなげていく、環境活動の第2ステップとして、2006年から白老町で、2008年からは札幌市で、植樹を行っています。

札幌市での植樹は、まず2008年に手稲山口で、2009年からは札幌市が「みどり豊かな街づくり」を目指す北区茨戸川緑地公園で、札幌市・NPO法人森林づくりサポートセンターとの3者で9年間の植樹・育樹協定を結び、開催しています。

## ラブアースの森づくりin札幌2010

開催地/札幌市北区茨戸川緑地

主催/ NPO法人北海道市民環境ネットワーク・NPO法人森林遊びサポートセンター

9/19 植樹準備(草刈等) 参加者/27名

9/26 植樹 参加者/91名(札幌市内企業 5)

## ラブアースの森づくりin白老2010

開催地/白老町「ラブアースの森」 同植樹地での開催は今年で最後

主催/NPO法人北海道市民環境ネットワーク

協力/NPO法人ウヨロ環境トラスト・北ぐにの森づくりサークルほか

9/4 植樹 参加者/47名



ラブアースの森づくりin札幌・茨戸



さばーとほっと基金を通じて企業からカミネッコンをいただきました。

### 【課題】

- ・森づくり関係はきたネットの強み。企業・団体の社会貢献活動としての需要が多いが、運営資金・人手は不足。資金が不安定。協賛企業以外の参加をお断りしている状況。
- ・次年度以降の、札幌市以外の植樹地の確保。
- ・植樹に積極的な企業は多いが、実際急務なのは、荒廃・放置された森の手入れ、保全ではないか。

2010年11月 ラブアースの活動は

第二回「さっぽろ環境賞

温暖化対策部門優秀賞をいただきました。

ありがとうございました。

# 環境中間支援会議・北海道 (E navi会議)

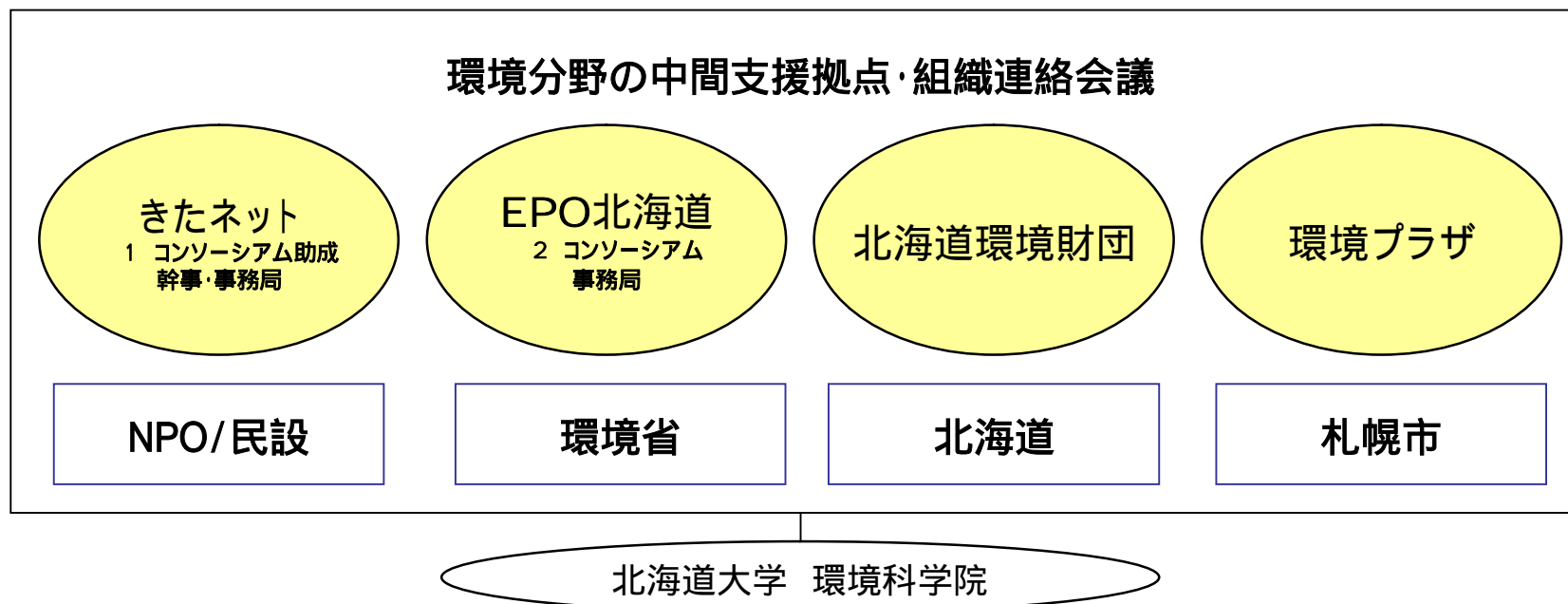


(旧 環境分野の中間支援拠点・組織連絡会議 2010.11改称)

「中間支援組織会議・北海道」(E navi会議)は、札幌圏で活動を行っている中間支援4組織が連携して、北海道内におけるさまざまなセクターの環境活動を支援するために、より効率的に役立つ組織を目指し設立された組織です。

札幌にはさまざまな機能が集中していますが、環境分野の中間支援組織においても例外ではなく、環境省も北海道も札幌に設置しているため、役割が集中する形になっています。これらの組織が、重複している役割などをなくし、できるだけ効率的にし、互いの強みを活かし、1+1+1+1が4はもちろんのこと、5にも6にもなるように連携をとって、よりユーザーにとって役立つ支援内容を追求して活動しています。

国・道・政令指定都市が設置した団体と民設NPOが、こういった対等な形で連携する例は、全国でもめずらしく、各方面から注目を集めています。



1 パナソニックNPOサポートファンド コンソーシアム助成を受け、2010年度は、本会議の幹事団体として会議の運営を行っています。

2 ~2009の事務局を担当

# 環境中間支援会議・北海道 これまでの歩み



## 同じ機能の組織

中間支援組織がグループ企業のように、一体感を持ってサービスを行ってれば利用しやすく、質もより向上するのではないかと考え、そこで、どのような点で、協働共有できれば、効率的な支援が行えるのかを議論し、その推進体制の検討を進めていくことを目的とし、「環境中間支援会議・北海道」の設置に至りました。

2008年

5月 第1回準備会開催

定期的にワークショップ開催 ...各組織の概要の共有、強み・弱みの抽出、4者協働で「ユーザー」に提供できるものは何か？等を議論。

情報カレンダー「E day HOKKAIDO」の設置を決定・準備スタート

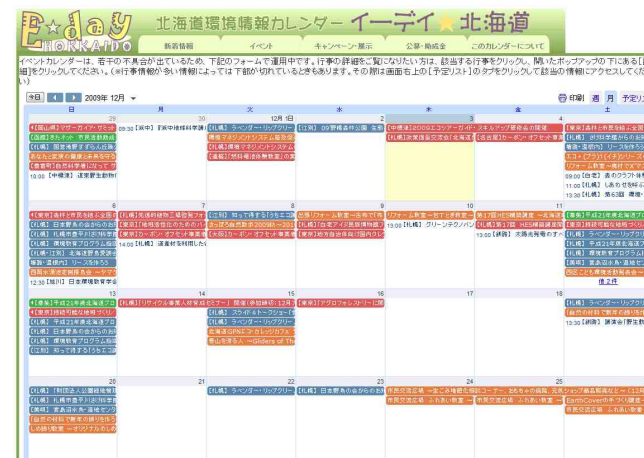
2009年

4月 情報共有カレンダー「E day HOKKAIDO」開設。情報発信の一元化と省力化が目的。4者協働による初の事業となった。ワークショップ、公開ヒアリング・協議を重ね、内容を4施設で共有、協議を行った。

2010年 1月 パナソニックNPOサポートファンド コンソーシアム助成決定。

2010年度はこの助成金をもとに、以下の事業に取り組んでいる。

- A.現状の業務をベースとした役割分担の明確化
  - ...各団体の強みを生かした「協働体制」・「役割分担」の確立
- B.スタッフのスキルアップ
  - ...北海道大学大学院環境科学院GCOEプログラムと連携
- C.「ユーザーサービス向上につながる「見える化」
  - a.WEBサイト 仮想環境系中間支援団体ポータルサイトの設置
  - b.取組みを「見える化」したパンフレットの作成
  - c.4団体の行事・地域連携の会議などの場を活用して、本取組の報告会を行い、成果を周知・広報する。



北海道の環境活動のポータルサイト「環境 ナビ北海道」2010.11OPEN

<http://www.enavi-hokkaido.net>

## きたネットが次にめざすものは・・・

- ・北海道の自然環境・環境活動の多様性、豊かさを、北海道に住むひとりひとりに再認識・誇りにしてほしい。
- ・札幌などの大都市が自然といかに共生していくか、そのためには知識・経験・スキルが必要。
- ・企業・行政・NPO・市民、本当のパートナーシップは？ ……etc.

## 環境中間支援会議・北海道がめざすものは・・・

「かけがえのないこの自然環境や資源を次世代に引き継いでいくためには、私たち道民が北海道の持つ価値と可能性を再認識し、「持続可能な社会」実現を目指す取り組みを広げ、その質を高めていくことが不可欠です。私たち「環境中間支援会議・北海道」は、この地が、世界に誇れる「持続可能な社会」となるよう、道内の取り組みや必要な情報を収集、整理、発信していきます。さらに、それらを道内、国内はもとより、世界の人々と共有し、ともに行動できるよう、さまざまな主体による取り組みを支援します。」

We save, We love ……HOKKAIDO

私たちといっしょに、北海道の環境を守り・育て、世界へ、未来へ発信していきましょう。

ありがとうございました。

NPO法人 北海道市民環境ネットワーク「きたネット」



〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1番地6 彩木ビル2F

TEL:011-531-0482 FAX : 011-531-0483

<http://www.kitanet.org/> E-mail [office@kitanet.org](mailto:office@kitanet.org)